



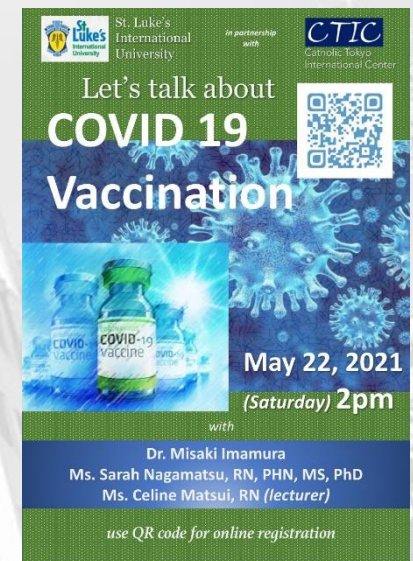
聖路加国際大学 WHOプライマリーヘルスケア看護開発協力センター(JPN-58)

- TOR1(付帯条項1) プライマリヘルスケアの検索結果と最良の知見の普及を通じて、消費者、看護師、助産師、政策立案者の間でUHCに対処するためのPCCを提唱するWHOの活動を支援する。
- TOR2(付帯条項2) WHOの要請に応じて、プライマリヘルスケアにおける看護・助産の効果的な実施のエビデンスの提供に関する系統的なレビューと研究を実施する。
- TOR3(付帯条項3) UHCを達成するために、看護師、助産師、その他の医療専門家に対するプライマリヘルスケアの実践能力、教育、研究能力の構築に向けたWHOの活動を支援する。

「在日外国人向けオンラインCOVID-19ワクチン勉強会(TOR2)」

1)事業の背景と目的

COVID-19は世界中に瞬く間に広がり、国民の生活に大きな影響を与えた。未知の感染症に関する科学的知見も治療薬もなかった2020年当初は、いかに感染を予防するかが国民の関心事であったが、重症患者の死亡報道や医療崩壊によるPCR検査や受診の制限に至るや、人々の不安はいや増した。わが国には200万人を超える在日外国人が居住しているが、新型コロナ感染症流行初期における外国人向けの情報は非常に限られていた。COVID-19に関する科学的根拠に基づく情報、受診方法、感染防止のための新しい社会ルールなどの情報ニーズがあったものの、多くの外国人が適正な情報を得られずにいた。聖路加国際大学国際看護学チームは在日外国人コミュニティより、COVID-19に関する情報支援を求められたことから、2020年に在日外国人向け「COVID-19への対処方法」、2021年には「COVID-19ワクチン」に関する勉強会をオンラインで実施した。





2) 事業の概要(写真、資料等)

在日外国人向けCOVID-19ワクチンzoomセミナー

【講師】 今村 昌幹(石垣市ぬちぐすい診療所)
 長松 康子(聖路加国際大学大学院国際看護学)
 落合香保里(聖路加国際大学大学院修士課程)

【協賛】 東京カトリック国際センター

【概要】 2時間のプログラムは英語を用いて実施され、フィリピン人を中心とする在日外国人約60名が参加した。

- 【内容】
- ・ワクチンの有効性、安全性、副反応とその対処法
 - ・接種券を用いたワクチン接種の申し込み方、問診票の書き方
 - ・ワクチン接種の流れ、服装や持ち物
 - ・Q&A (COVID-19感染歴のある者やがん患者のワクチン接種等)

【参加者からの要望】

接種会場における多言語対応や多言語の問診票配置*

* 多言語問診票については、現在、厚生労働省ホームページからのダウンロードが可能である。

【参考資料】 Nagamatsu Y, Ochiai-Matusi K and Imamura M. (2022). Report of the Public Online Educational Program for Migrants about COVID-19. Bulletin of St. Luke's International University. 3:116-120. doi/10.34414/00016580

3) 今後の予定

外国人からの要望に応じて講演会を継続開催する。

